

平成 18 年  
区民生活環境委員会 管外行政視察  
調 査 報 告 書

1 期 間

平成 18 年 7 月 3 日 ( 月 ) から 7 月 6 日 ( 木 ) まで

2 視察目的・理由

23区では、ごみ埋立処分場を1日でも長く使用し続けると同時に、資源を有効活用することを目指して、埋立処分場に占める割合の高い廃プラスチック等を可燃ごみとして焼却することにより熱エネルギーを回収する「サーマルリサイクル」を実施することを確認しました。新たに焼却の対象として、収集するごみは、廃プラスチック、ゴム、皮革類です。平成18年度から4区でのモデル収集を実施し、平成19年度は、モデル収集実施区の拡大、平成20年度から23区全において廃プラスチック等を収集し、廃プラスチックのサーマルリサイクル本格実施の予定です。

福岡市では、既に、プラスチックごみ等を焼却し、余熱利用（サーマルリサイクル）を実施しております。また、平成17年10月より、家庭ゴミの有料化を始めたところでもあります。プラスチックごみ等の焼却、及び、余熱利用（サーマルリサイクル）実施の先行自治体として、同市を訪問し、委員会論議の参考とするため行政視察を行います。

区内には、歴史のある建造物として、赤れんがの東京駅や旧万世橋駅等があります。この国の重要文化財にも指定されている東京駅丸の内本屋の復元工事がまもなく始まるとの報道もあります。

一方、北九州市では、古い街並みや歴史的な建物を利用した、古い街並みと新しい都市機能をミックスさせた、「門司港レトロ」として都市型観光地を目指しているところです。同市を訪問し、産業面・観光面の観点からも、委員会論議の参考とするため行政視察を行います。

また、北九州市には、文化・商業・オフィスの複合施設として、「リバーウォーク北九州」がオープンしており、今後の委員会論議の参考とするために、あわせて現地調査を行います。

### 3 視察先及び調査事項

#### (1) 福岡県福岡市

- 1) プラスチックゴミの処理、及びゴミ有料化について  
清掃工場現地調査  
プラスチックゴミの処理、ゴミ有料化

#### (2) 福岡県北九州市

- 産業振興及び観光の観点から
- 1) 商業的複合施設について  
(リバーウォーク北九州 現地調査)
  - 2) 歴史ある建造物を利用した観光施策について  
(門司港レトロ地区 現地調査)
  - 3) ゴミ有料化について(資料収集による調査)

### 4 視察参加者

#### 【委員】

委員長	小林 やすお	(自由民主党議員団)
委員	河合 良郎	(自由民主党議員団)
委員	久門 治人	(自由民主党議員団)
委員	大串 ひろやす	(公明党議員団)
委員	寺沢 文子	(ちよだの声)
委員	石渡 伸幸	(自由民主党議員団)
委員	飯島 和子	(日本共産党区議団)

#### 【随行理事者】

区民総務課長	小池 譲二
清掃リサイクル課長	北 昌 広

#### 【区議会事務局】

調査係長	北沢 浩治
議事主査	土谷 吉夫

#### 【視察実施決定の経過】

- 6月16日 委員から提案のあった内容及び委員長案を提示する。
- 6月22日 調査理由、調査事項及び調査日程等の詳細を確認。
- 6月23日 委員長から議長あて国内派遣承認要求書を提出し、議長の承認を得る。同日の各派協議会にて議長より派遣承認をした旨を報告。

## 5 調査概要

### (1) 福岡県福岡市

#### 1) 「クリーンパーク・臨海」行政視察

【福岡市：臨海工場 河野係長、高居係長】

映像・口頭による説明を受けた後、「クリーンパーク・臨海」内の臨海工場・リサイクルプラザを視察。

#### 1 クリーンパーク・臨海、施設概要

福岡市で、4番目の基幹的ごみ焼却処理施設として、初めて市街地に建設しました。市街地に位置することから、都市景観に配慮した、住民に親しまれるデザインの建物としています。臨海工場のほか、多目的広場、体験型環境学習施設、リサイクルプラザなどを併設しています。なお、リサイクルプラザの運営は、「NPOエコネットふくおか」が行っています。

##### (1) 臨海工場（清掃工場）

- 1) 建設経費 約478億円（用地費を除く）
- 2) 施設規模 焼却炉 300トン×3基（通常2炉稼働）

##### (2) 特徴

- 1) ダイオキシン類の発生抑制 完全燃焼・安定焼却設備
- 2) ろ過式集じん器・排ガス処理設備
- 3) 汚水の再利用
- 4) サーマルリサイクル

クリーンパーク内で使用するほか、電力会社へ送電しています。

（視察当日は、約10,000kwを発電し、クリーンパーク内で、1/2を使用、1/2を電力会社へ送電していました。）

#### 2 臨海工場建設の経緯

既存の3つの清掃工場は、福岡市の周辺部（山間部）に建設されていました。

その後、ごみ処理状況が福岡市を圧迫した為、もう1か所、清掃工場を建設する必要が生じました。しかし、周辺部には用地がないため、市の中心部にごみ処理場を建設することになりました。

このクリーンパーク・臨海は、箱崎ふ頭にあります。箱崎ふ頭は、もともと貯木場として、南洋材を貯木していました。しかし、南洋材の需要が少なくなった

ことで、港湾局も（貯木場の）今後のあり方について、いろいろ計画を練っていました。このため、環境局も清掃工場（建設）の要望書を福岡市に提出し、清掃工場の建設の了承を得ました。

平成6年に運輸省（現、国土交通省）に埋め立て許可申請をし、平成6年10月に認可を受け、埋め立てを開始しました。建設は平成9年から着工し、現在、臨海工場が稼働しているところです。

既存3清掃工場との違いは、平成12年に法改正があり、ダイオキシン対策として、「ろ過式集じん器」を福岡市で初めて当初から設置した工場ということです。なお、既存の3工場は後付けで、設置しております。

### 3 クリーンパーク・臨海のキャッチフレーズ

基本理念は、「A & E」（Amenity & Energy）です。この基本理念は、高度な技術による施設の信頼性と安全性の確保、環境保全対策の徹底と快適な都市環境の創造、そして、ごみの資源化やエネルギーの有効利用の推進など、21世紀の清掃工場のあり方を示しています。

### 4 「空きびん、ペットボトル」、及び「プラスチック」の処理について

「空きびん、ペットボトル」は、分別ごみとして、袋に入れ月に1回夜間収集します。収集後、資源化センターへ持ち込み、再資源化工場へ運びます。ペットボトルは、インゴット状に圧縮して固めたものを容器包装リサイクル法に基づいて業者が引き取りにきて、再生化する仕組みです。

ペットボトル以外の、その他のプラスチックごみは、可燃ごみとして収集します。ただし、トレイ等は、スーパーマーケットで回収していますので、この回収されたトレイ等は業者が引き取り処理します。



## 【主な質疑応答】

問： トレイの回収方法は、どのように行っているのですか。

答： スーパーマーケットに置いてあるトレイ置き場で回収を行っています。

また、トレイ回収以外の例示として、福岡市内の小さな酒屋さんが、レジ袋を何回も利用する仕組みを実施しています。

仕組は、「1回目は無料で、ビール・ジュース等をレジ袋に入れ持ち帰り、2回目以降は、レジ袋をお店に持っていけば5円返却、または、一度使用したレジ袋に入れてもらえれば、5円値引きします。」このようなアイデアを出されている酒屋さんもあります。

問： ダイオキシン対策の「ろ過式集じん器」のフィルターの交換は、何年おきですか。また、使用済みフィルターの処理をどのように行っているのですか。

答： 臨海工場は、5年目で初めて交換しました。3炉ありますので、5～7年目までの3年間で全て交換します。

使用済みバグフィルターは、この臨海工場で焼却処分しました。焼却処分の方法は、焼却量が1炉300トン/日量ですので、その5%（15トン）を1日24時間で焼却しました。

（バグフィルターを焼却しても）焼却時炉内温度が950度のため、ダイオキシン対策の基準はクリアしています。また、焼却の際第三者機関が（ダイオキシン等の）量を測定しており、臨海工場の処理データは、全て公開しています。

問： 3炉全部運転することはありますか。

答： 2炉運転が基本で、1炉は福岡市全体の予備炉の扱いで、3炉運転することはほとんどありません。

問： 可燃ゴミの中の廃プラの量は、どれくらいですか。

答： 廃棄物試験研究センターのデータでは、重量割合による「ごみ組成」は、平成17年4月から18年3月の平均で、紙類が51%、今言われるプラスチック類、高分子類として20%。木片、わらが5%、繊維が5%、ちゅうかいが12%、雑かい（明確に分類できないもの）が4%、その他が2.5%ぐらいです。

## 2) プラスチックゴミの処理、及びゴミ有料化について

【福岡市：吉田環境推進課長、同課真鍋係長】

### 1 福岡市清掃関連施設状況

- (1) クリーンパーク・西部（清掃工場）
- (2) クリーンパーク・東部（清掃工場）（建設、運営、をPFIで実施）
- (3) クリーンパーク・南部（清掃工場）（隣接の春日市に設置）
- (4) クリーンパーク・臨海（清掃工場）
- (5) 西部埋立場
- (6) 東部埋立場（隣接の久山町に設置）

（注） 市外にある南部工場、及び東部埋立場は、運営等を福岡市で実施しています。久山町、春日市の排出ごみも福岡市で処理を行っており、久山町、春日市は、その分の費用負担を行っています。）

### 2 福岡市の家庭ごみの流れ

#### (1) 福岡市のごみ分別

ごみは、燃えるごみ、燃えないごみ、空きびん・ペットボトル、粗大ごみの4つに分別しています。プラスチックは、燃えるごみに分別し、焼却処理を行っています。

#### (2) 特徴

ごみ処理の特徴は、次の2点です。

- 1) 夜間戸別収集 燃えるごみ、燃えないごみ、空きびん・ペットボトルを、夜間戸別収集しています。

- 2) 100% 民営による収集

市ができた明治44年から一環して100%民営で家庭ごみを収集しています。例外は、小・中学校等市の施設のみ、直営で収集を行っています。

#### (3) 燃えないごみ

空き缶等の金属類、小型の家電用品、陶磁器類等を燃えないごみとして分別し、収集しています。収集後、東部工場と西部工場に隣接された資源化センターへ運搬します。

収集した燃えないごみを細かく粉碎し、燃えるものは、隣接した清掃工場

で焼却し、燃えないものは埋立場に運搬します。

ただし、スチール、アルミ等は、資源化センターで選別し、年間約3億円程度の売却収入を得ています。

(4) 「空きびん、ペットボトル」について

「空きびん、ペットボトル」は1つの袋で収集し、民間選別施設で茶色のびん、無色のびん、それ以外の色のびん、ペットボトルの4つに選別され、容器包装リサイクル法のルートで福岡市は資源化を実施しています。

(5) 古紙の収集について

古紙の収集は、集団回収を主力と考えており、行政は直接回収を実施していません。

3 ごみ有料化に至る経緯

(1) 平成9年12月 指定袋導入

指定袋は、収集の安全性の観点から、中身がはっきり見えるということを目的に導入しました。

仕組みは、規格を市で決定し、価格・販売等を民間にゆだねた方式です。

併せて、3分別収集（燃えるごみ、燃えないごみ、粗大ごみ）を開始しました。

(2) 平成12年4月 「空きびん・ペットボトル」の分別収集を始めました。

(3) 平成12年8月

福岡市循環型システム研究会を設けて、今後の家庭ごみを含めたごみのあり方の検討を始めました。約2年かけて、最終報告書を答申し、この最終報告を受け、「ごみ処理の基本計画」に着手しました。

(4) 平成15年11月

ごみ処理基本計画（家庭ごみの有料化も含む）についての住民意見交換会を実施しました。

1) 意見交換会の実績

各小学校区単位で、この基本計画の素案を提示し、住民の方の意見を伺う会を実施しました。実績は、平成15年11月から平成16年9月まで、実施回数が168回、参加人数が7,153人です。

## 2) 意見交換会の説明内容

このままごみが増えた場合、清掃工場があと8年、埋立場も約20年ぐらいいで満杯になるという説明をまずしました。

そこで、埋立場が満杯にならないようにするために平成14年度を基準に10%ごみを削減する、ごみ処理量については、事業系、家庭系を合わせて62万トンに抑えるという計画をつくりました。

## 3) 福岡式循環型社会システムの8つの柱

計画の中に、福岡式循環型社会システムとして、次の8つの柱をつくりました。

環境学習、 地域発意事業、 事業者発意事業、 支援組織整備、  
基盤整備、 経済的仕組み、 環境市民ファンド、 指針作成

## 4) ごみ有料化の理由

ごみ有料化の理由は、次の3点としました。

排出者責任、 負担の公平性、 ごみ減量・リサイクルの行動を起こすきっかけづくり

## 5) 福岡市近郊のごみ有料化の状況

平成14年調査時点で、福岡市の近郊の有料化の状況は、有料化をしていないのは、福岡市と、隣の春日市の2市だけでした。

現在は、春日市も有料化を実施しており、福岡市近郊はすべて有料化しているのが現状です。

## 4 ごみ処理基本計画について

### (1) 平成16年12月

ごみ処理基本計画「循環のまち・ふくおか基本計画」を策定

### (2) 平成17年 3月 家庭ごみの有料化の議案を可決。

### (3) 平成17年 4月 家庭ごみ有料化の説明会を実施。

### (4) 平成17年10月 家庭ごみの有料化を開始

## 5 ごみ処理基本計画のパブリックコメント

平成16年8月の約1か月間、家庭ごみの有料化実施の意見を求めました。

意見提出は、団体、個人の方も含めて211件有り、そのうち、有料化に関する意見は97件でした。

内訳は、有料化について、賛成が54名、反対が32名、その他の意見ということで11名の方の意見がありました。

### (1) 反対・賛成の内容



1) 反対意見の主な理由

税金の二重取り(約25%)

負担が増える(15.6%)

まず有料化をやる前にやることがあるのではないか(15.6%)

財源がないと言うなら、他の事業を見直してでも有料化をすべきではないのではないか(9.4%)

減量効果というのは本当にあるのか(9.4%)

条件つきとして、ほかの政策を実施してそれでもだめだったら有料化をすべきではないか。

2) 賛成の理由

ごみ減量効果、排出者責任が明確になる(11%)

条件として、額は少なくして下さい。

都市美化等のため、清掃用のボランティア袋をつくってほしい。

市の財政事情が苦しいならば実施することも検討すべき。

有料化はやむを得ないが根本的な解決にならない。

有料化により不法投棄が増えるのではないか、対策が必要

事業ごみについてもっと強く申し入れをすべき。

6 指定袋から有料化へ移行にともなう問題点

(1) 有料化に伴うごみ袋を福岡市が制作販売することになるので、これまで、指定袋を制作販売していた民間事業者の収入がなくなってしまう点。

(2) 市民理解として、従来も指定袋を購入していたため、既に有料化されていたというふうに思っていた方もいた点。

7 有料化袋の手数料

有料化の手数料(袋の額)は、「周辺市町村の額」、「あまり高額にすると不法投棄を招くことになる点」、「指定袋は、大体6円、12円だったこと」等を勘案し、単純従量制を採用し、「リッター1円」として、指定袋を導入しました。

	大(45リッター)	中(30リッター)	小(15リッター)
燃えるごみの袋	45円	30円	15円
燃えないごみの袋	45円	30円	15円
「空きびん、ペットボトル」の袋	22円	15円	

## 8 有料化以外の施策

家庭ごみ有料化以外にも、同時に幾つかの施策を実施しました。

### (1) 校区紙リサイクルステーション

(古紙を) 集団回収に出せない場合への対応として、各小学校区に1か所設けて、必ず直接持ってこられる場所を提供する「校区紙リサイクルステーション」を始めました。

### (2) 地域集団回収

従来、キロ当たり3円の補助を平成16年前倒しの形で、キロ当たり5円に、集団回収へのインセンティブをあげました。

### (3) 環境市民ファンド

環境市民ファンドの目的は、未来の子どもたちに美しい地球環境を残すことです。具体的には、NPO等の市民団体による、「ごみ減量・リサイクル事業」、あるいは「環境に対する啓発事業」、「環境保全事業」、あるいは環境美化事業、こういった事業について、活動に応じて補助金を出していく制度です。

### (4) 不適正管理

有料化が始まった10月から3か月間、ルール違反のごみがたくさん出たのではないかとということで、職員による夜間の見回り、違反ごみにステッカーを貼付、あるいは違反ごみを取り残す指示を出す、必要であれば住民の方に指導するということを実施しました。

### (5) 事業系古紙回収について

事業系について、古紙回収を徹底してもらう為、リサイクル業者、収集業者との会議体を設け、どんな小さな事業者からでも古紙が回収できる制度をつくりました。

### (6) 自己搬入事前申込制度を導入

従来、工場に直接搬入する場合は、受付の窓口で発生場所等を記入する方法でした。これを平成17年10月から、ごみを出す際、事前に申し込みを行い、許可を受けてから清掃工場に搬入する、自己搬入事前申込制度を導入しました。

## 9 有料化の周知

有料化が議決を受けた平成17年3月25日以降、ごみ減量啓発の広告を有力な主要4紙の紙面に全面広告を出しました。また、4～5月、直前の9月にテレビCMを流しました。

説明会を各区で2回、小学校区あるいは町内会の要請での説明会を合計110回開催、6,100人の方に説明しました。

## 10 有料化後のごみ状況

有料化実施後、現在、6か月経過しましたが見た感じでは減っています。

ただし、この減少傾向について、有料化が要因で減っているという説明はしておりません。有料化によるものか、一時的なものかどうかというのは、ある程度1年ぐらいやってみないとはっきりした結論はつけられないというふうに思っています。あと6カ月の状況を見て、もう少し具体的な話をしていきます。

また、平成18年10月ぐらいに、市民意識調査も実施しようと思っております。その意識調査でどう変わったのか、どういうふうに行動が移ったのか、そういったものもあわせて分析することによって、次のごみ減量政策につなげていきたいというふうに考えております。

### 【主な質疑応答】

問： 「資源回収の状況」で、新聞販売店あるいはスーパーの発泡トレイの回収が増えているということですか。何か行政からの働きかけみたいなものはあったのでしょうか。

答： 一番最初の「ごみ処理基本計画」の際に、住民の方の意見で、新聞・広告、チラシはどうにかならないのかという意見が多くありました。事業者の方で回収する制度、例えばあのときは読売新聞が新聞販売店で回収していましたので、新聞の販売店を集めて、新聞古紙回収モデル事業というのを平成12年度から開始しました。最初はモデル地区の形で、その中の販売店の1社が自分たちでやってみようと思った。昨年ぐらいから、販売店が私たちの手を離れて独自で新聞店の方でやりますよという申し出がありましたので、今は新聞店が自分達で実施しています。従って、収集まで全部新聞社の負担で実施しています。実際は、古紙回収業者さんと連携してやってもらっているのが現実なんです。確かな記憶ではありませんが、大体それで3,000トンぐ

らい回収しているらしいです。

もう1つ、(トレイ等の)店頭回収についても、年に2回ほど主要なスーパーと話し合う機会の場に、NPOの団体にも今回入ってもらいました。市民団体の代表として、こういうことをしてほしい等の要望して頂く。回収の方ももう少し頑張ってもらいましょうと。ただ、今回逆に集まり過ぎと、出される方のマナーがかなり悪いということもあり、あと市民の方に出す側のマナーを守っていただきたいというのを今かなり要望されている現状です。

問： 有料化の結果、ごみが減ったのかどうかということは、先ほどの説明だと、1年ぐらいたたないとわからないのではないのか。他の自治体、いろいろな先進的な例を見ると、3年、5年と経て、一定程度しっかりした、本当にそれで効果があったのかどうかわかる。また、経済の状況や何かも影響する。経済的な世の中の動きが減速すれば、(ごみが)この影響で減っているのか、それとも、有料化によって減っているのか。そこら辺にもなかなか読み解くのが難しい。3年、5年しないとわからないんじゃないかというようなところをよく聞くんですけども……。

答： 確かに経済の状況をトータル的に見ないと、有料化はある意味では施策の1つなんです。有料化だけではごみは減らないというのは、私たちも議会の方でもかなり説明しました。有料化だけしても本当はごみは減らないんですよ、当然その受け皿とかそういうものをやって、有料化はあくまで発生抑制の1つの施策だというふうに考えています。きっかけづくり、負荷を与えることによって、リサイクルに持っていく。その施策の一つだというふうな考え方なんです。意識が変わって、このぐらいお金を払えばいいやと言ってしまえば、もうそこで終わるんです。先ほど1年というふうに言ったのは、その1年で意識調査をあわせてするというふうに言ったと思います。だから、その意識調査を組み合わせ、(ごみ減量)行動に本当に移ったのかどうか、そこでやらないといけないのかなと思うんです。

問： 新聞紙の回収・トレイ回収は、行政としてやっているわけではないので、そういう連携のとり方をして、行政でやるとした場合には、そのコストはかからなくなるということでしょうか。

答： 今回のごみ処理計画をつくったときに、行政があらゆるものに手を出すのは本当にいいことなのか。ということで、当面、4分別を継続するという基本計画の流れになっています。

その他・プラの話がよく出ていますが、これは、もう少し時間を下さいと

ということで、最終答申では出しています。

現在、その他・プラを分別してからの処理方法は、容器包装で集められ、最終的にはコークスの高炉還元剤ですとか、コークス炉の方に使われているのが半分以上を占めています。サーマルリサイクルあるいはケミカルリサイクルと言うそうなんですけれども、そういうリサイクルを出して使われているというのが今の現状です。

市民の方に分別していただいて、最終的にそれは確かに資源としてはかなり有効活用と言えるのかもしれませんが、本当にCO<sub>2</sub>とかガソリンとか、そういうコストとかも含めまして、本当にやるべきなのかどうなのかというのはもう少し時間が要ると考えています。

問： 住民の方のご意見で、減免ということが出ていますけれども、所得の低い方とか、それと紙おむつ、お子さんを抱えている方とか、減免というのはどうなっていますか。

答： 結局は減免は一切認めませんでした。確かに生活保護者、弱者についての意見はかなりあったのは事実です。

ただ、ごみを出す行為は、金額ではなくて、量の問題です。指定袋制度でも、生活保護者であっても袋は買っておりました。その際、補助は出ていないんです。これは福祉関係の方の生活保護の担当とも話して、実際こういった場合、減免にできるのか、あるいは減免しない場合、補助費が上がるのかというの聞いてみたんですが、補助費を上げるというのはできないと、それは無理だろうと。

ただ、要望についてはまだ挙がっています。当然いつの時点かで、もう一度考えないといけない時期が来ると思います。

紙おむつも同じです。さらに、減免の方法で紙おむつですよという専用の袋を使うと、プライバシーの問題が出るのではないかと。紙おむつについても、また議論がもう一回起こらないといけない部分ではないかなと思っております。

問： ボランティア袋の仕組みはどのようなものですか。

答： 従来、町内の方が例えば清掃したごみは、燃えるごみの日に皆さん出されていたんです。これをボランティア袋、環境美化袋を区役所の方に置いて、何枚、どういう目的かを申請していただきます。燃えるごみの日、燃えないごみに合わせて分けて出すことで、業者が収集するという仕組みです。

問： 税金の二重取りではないかというご意見が多かったようですが、それに対してどう説明していますか。

答： 今回有料化して、全額取るのであれば二重取りという可能性は十分あると思いますが、実際経費をすべてを取っているかということ、取っていないんです。あくまでその中の負担の一部を負担してもらっただけであって、それを税金で全額賄うのか、一部負担してもらおうかというのは、差がないというふうに説明しています。

問： 23区の場合は、中小企業の方をメインとして事業系のごみは行政回収をやっているんですけども、福岡市はどうでしょうか。

答： 基本的にはすべて許可業者にやってもらいます。専用世帯の補助金制度というのを設けております。内容は、例えば小さなお店の場合は、事業のごみと家庭系のごみとが一緒になってしまう。この場合は、事業所のごみで収集し、家庭系で無料、あるいは家庭系に相当する分を補助金として出しています。



## (2) 福岡県北九州市

### 1) 商業的複合施設について

【北九州市：宮本再開発課長、同課斉藤係長】

#### 1 目的

室町一丁目地区第一種市街地再開発事業（リバーウォーク北九州）は、北九州市の基本構想である「北九州市ルネッサンス構想」に基づき実施されている柴川マイタウン・マイリバー整備事業と連動して行っている事業です。

この事業が目指すのは、街のオアシスである柴川、勝山公園、小倉城などの自然と歴史的遺構に囲まれた新しい北九州の、そして豊かな未来への期待とシンボルとなるにぎわい空間の形成です。

第一期事業では、専門店街・映画館等のサービス・商業ゾーン、各種文化的なイベントを可能にする北九州市の大・中・小ホールを中心とした文化ゾーン、新聞社・放送局などの情報発信ゾーンをもつ「リバーウォーク北九州」を整備しました。第二期事業では、新時代の大学施設を整備したほか、商業機能の拡充を図りました。

これら施設整備とあわせて公共施設整備を進めることで、北九州市の都心にふさわしい魅力ある街づくりに寄与しています。

#### 2 整備経緯

- |      |            |                       |
|------|------------|-----------------------|
| (1)  | 平成 2年 8月   | マイタウン・マイリバー整備事業の認定    |
| (2)  | 平成 8年 12月  | 室町一丁目地区市街地再開発準備組合設立   |
| (3)  | 平成 9年 11月  | 室町一丁目地区市街地再開発事業都市計画決定 |
| (4)  | 平成 11年 5月  | 管理持床会社設立              |
| (5)  | 平成 11年 6月  | 事業計画認可、再開発組合設立        |
| (6)  | 平成 12年 2月  | 権利変換計画認可              |
| (7)  | 平成 12年 7月  | 第一期工事着工               |
| (8)  | 平成 15年 4月  | 第一期工事竣工               |
|      |            | 「リバーウォーク北九州」オープン      |
| (9)  | 平成 16年 10月 | 第二期工事着工               |
| (10) | 平成 17年 7月  | 特定施設建築物「レクサス小倉」竣工     |
| (11) | 平成 18年 3月  | 第二期工事竣工               |
|      |            | 「リバーウォーク北九州・大学棟」オープン  |
| (12) | 平成 18年 12月 | 室町一丁目地区市街地再開発組合解散 予定  |

もともとの河川のへりに再開発の約半分の面積でL字型に小倉北区役所と消防局がありました。

平成2年8月のマイタウン・マイリバー事業の認定を受けました。

これを契機にして、この小倉北区役所が老朽化しており、区役所の跡地の建て替え問題をどうしようかというところが事の起こりでした。

マイタウン・マイリバー事業は、学識経験者等の先生からいろいろ諮問を受けの中で、この一等地にこの区役所だけでいいのか、文化交流施設等も含めて拠点性を高めたらどうかという提言があり、この土地を有効利用しようという話がありました。その結果、北区役所自体は福岡市役所の本庁を挟んでちょうど南側の反対に移ることになりました。

再開発の敷地内には、区役所以外にも、地元の玉屋百貨店、スーパーのダイエー、ホテル関係の一部、銀行もありました。これら北区役所以外を取り込んで再開発事業を実施することで、規模が3.6ヘクタールに拡張し、第一種市街地再開発事業の手法で実施が決定しました。

### 3 事業計画概要

- (1) 地区面積 約 3.6 ha
- (2) 延床面積 約 178,000 m<sup>2</sup>
- (3) 事業費 約 500億円
- (4) 建築デザイン 第一期工事 ジョン・ジャーディ  
第二期工事 マイケル・グレイブス

#### 参考 建築デザイナーの略歴

##### ジョン・ジャーディ略歴

福岡のキャナルシティと同じ設計デザイナーで、リバーウォーク北九州も非常によく似たつくりとなっています。それから、六本木ヒルズのメーンのタワーの周辺を取り巻く商業棟、カレッタ汐留の電通ビルの横の商業棟、川崎市のラチッタデッラ、大阪のなんばパークスなどを手がけたデザイナーです。

##### マイケル・グレイブス略歴

日本ではあまり実績はないようですが、米国のディズニー本社ビルとか、福岡のキャナルシティ、博多駅の近くにハイアット・リージェンシーホテルなどを手がけたデザイナーです。



- ( 5 ) 持床会社 北九州柴川開発株式会社 ( 略称 KMD )  
( 再開発事業の保留床の取得会社 )  
資本金 62.25 億円  
( 北九州市 15 億 2,640 万円 比率 24.5% )  
リバーウォーク北九州の保留床を商業デベロッパー ( 福岡地  
所 ( 株 ) ) へ一括賃貸。

- ( 6 ) 主要用途 商業 ( 物販、飲食、シネコン )  
業務 ( 新聞社、放送局、事務所等 )  
文化 ( ホール、劇場、ギャラリー等 )  
教育 ( 大学 )  
駐車場

#### 4 事業効果

##### ( 1 ) 集客と売り上げ

- 1) 開業初年度平成 15 年は、目標 1,000 万人に対して、来場者は、約 1,150 万人、売上は、目標 200 億円に少し届かず約 183 億円でした。
- 2) 2 年度目以降は、来場者約 850 万人。売上約 150 億円。

##### ( 2 ) にぎわいの広がり

- 1) 柴川の東西にかかる勝山橋・鷗外橋の通行者数が従来の倍。  
西側は勝山公園、官公庁があって、人通りとしてはあまり人が来ないところでしたが、リバーウォーク北九州ができることによって、勝山橋、鷗外橋を利用した、歩行者が従前の倍になっています。
- 2) 最寄りの JR 西小倉駅 ( 新幹線開通前の小倉駅 ) の乗降客数が従来の 3 倍になりました。
- 3) 周辺観光施設 ( 小倉城、松本清張記念館、小笠原庭園等 ) の来場者数も増加しました。

##### ( 3 ) 商圈拡大

駐車場の利用状況を見ると市外ナンバーが約半数を占めており、市外からの来場者も多いと推測されます。

#### (4) 周辺地区への波及効果

1) リバーウォーク北九州の開業以降、周辺地区(魚町、室町など)で若年層をターゲットとした新規店舗のオープンが相次いでいます。

2) 都心部でのマンション、ホテル等の建設も増加傾向にあります。

現在、本庁舎のすぐ近くに小倉タワーというマンションが建設中です。

このマンションは、北九州では割と高級マンションという位置付けですが、こちらも売れ行きが首都圏に比べて劣らない状況で、予約も良好という状況です。

3) 地元まちづくり活動が活性化

商店街を中心としたまちづくり協議会があり、リバーウォーク北九州もタイアップして、一緒にイベント等を実施しています。

4) 周辺再開発の誘導(西小倉駅前地区)

都市計画道路を挟んで、西小倉駅前地区という再開発事業があります。

この計画も動き出す気配が見えて、この再開発の中に北九州では超高層と言える150メートルぐらいのマンションが建つ計画が持ち上がっています。

#### (5) 従業員数

現在、「リバーウォーク北九州」内で約2,500人が就業しています。

#### (6) 複合施設としての相乗効果

1) NHK、朝日新聞から小倉都心の話題を情報発信

全国で、県内に2つNHKが支局を持つのは福岡だけです。

朝日新聞西部本社機能も実質は福岡に移っていますが、名前を残しています。

2) 二期事業で西日本工業大学が進出(施設内の公共施設やメディアを活用した教育展開を企図)

### 5 賑わいづくりのための取り組みと課題

#### (1) 施設の魅力アップ

1) 消費者ニーズに合わせた店舗戦略

平成17年3月に開業後発の大幅なりニューアルを実施し、ファミリー向け店舗を拡大しました。以降、季節ごとにリニューアルを実施し、ニーズに合わせたMD戦略を展開しています。

また、連携したにぎわいづくりということで、北九州市も、まちづくり

交付金（イベント等にも使用可能）を国から得て活用し、地元と一緒に  
って四季折々のイベントを実施しています。

- 2) 館内回遊性の改善
- 3) 館内施設の連携を強化

## (2) 地域と連携した賑わいづくり

- 1) 地元商店街、周辺商業施設等と連携したイベント等の開催（柴川の貸しポート、冬季のイルミネーションなど、）
- 2) 都心の観光拠点として周辺観光施設との連携を強化
- 3) 学生のアイデア・エネルギーを生かしたまちづくり

## 6 リバーウォーク北九州の建物概要

### (1) デザインの概要

- 1) デザイナーのマイケル・グレイブス（アメリカ）は、勝山公園が近いこともあり、景観を生かした、また、日本的な色を取り入れたデザインを行いました。

ハーベストイエロー：	収穫期の稲穂をイメージ
赤：	漆をイメージ
黒：	日本がわらをイメージ
薄茶色：	大地をイメージ
白：	しっくい壁をイメージ

- 2) お城の借景等

リバーウォーク北九州は、勝山公園を生かして、開いた空間で、借景的にお城がスポット的に見えるようにとすることで、建設途中はいろいろ議会からもご批判いただきましたが、結果的にインパクトがあって、若者等多くのお客さんを呼び込める要素になっているのかなというふうに思っております。

### (2) 北九州市の権利床分

- 1) 多目的の大ホール。

市役所本庁舎の横に市民会館がありましたが、市民会館を壊して勝山公園という大きな芝生広場にし、今年の4月にオープンしました。

この市民会館の代替機能を多目的大ホールに持たせております。

- 2) 700席の中劇場。

この中劇場は、全国的にも珍しい演劇専用の小規模劇場です。北九州市

は、秋に毎年北九州演劇祭を実施しており、この劇場を拠点として演劇祭を行っています。

3) 小劇場、及び「戸畑区が本館である美術館」の分館

(2) NHKの権利床分

(3) 朝日新聞の権利床分

朝日新聞社は、黒い色のタワーの形式になっています。朝日新聞社さんに床を買っていただいて、朝日新聞以外にテナントとして、ゼンリン本社が入居しています。

(4) 北九州柴川開発株式会社(KMD)(黄色部分)

KMD権利床分、専門店、シネマ、駐車場。

福岡地所に20年契約で一括賃貸しており、福岡地所がさらにテナントに賃貸しています。

(5) 西日本工業大学(A-2棟部分)

二期事業で3階から11階まで床を所得していただきました。このA-2棟の下1、2階については、同じKMDが所有し福岡地所に賃貸し、西部ガスのショールームとして貸している状況です。

(6) B棟のトヨタレクサス

平成17年の夏、全国一斉にオープンしました。

これは再開発事業の枠組み内にはあるんですが、トヨタレクサスが土地を購入し、再開発事業とは別に自分のところで建設を行いました。



## 【主な質疑応答】

問： 夜のライトアップの朝日新聞の写真を拝見しましたが、小倉城もライトアップしているのでしょうか。

答： リバーウォーク北九州とともに、お城もしています。

問： 博多から新幹線で来る際に、リバーウォーク北九州で、お城が隠れてしまったのですが、これについてはどうですか。

答： もともとが北区役所、玉屋（地元百貨店）、ダイエーがあったので、あまり見えなかったんです。ただ、一遍壊してしまったことで、見晴らしが良くなったものですから、その後建ち始めたときに、またいろいろご批判がありました。その辺の証拠写真は残しているんですが、ただ、鉄道側から見たら、壁みたいにそそり立っているんで、確かに圧迫感があるという意見もごさいます。リバーウォーク北九州の建物の中に入って、ところどころが内外空間で切れている部分があります。そこからお城がちらちらと見えるような、特にこの内外空間のバルコニーあたりから見ますと、小倉城がちょうど額縁に入ったようなお城の見え方で、なかなかいい感じで見えるんです。

問： 柴川に人々が集うような場所があるのでしょうか。

答： 水上ステージというのがございまして、リバーウォークの中だけではなくて、川の周りでいろいろなイベントを四季折々やっており、ここに回遊性がまとまっている。というのは、昔、まだリバーウォークがなく、区役所、ダイエーがあったときは、人の流れがこの中で還流してしまっていたんです。紫川から西側に人が来なかった。この中で買い物をして、そのまま小倉駅に帰る。ここに西小倉駅というのがございまして、昔、ここが前の小倉駅だったんです。小倉駅と西小倉駅がございまして、ここが本当のもともとの小倉駅で、どちらかというところ、ここを中心にまちが栄えたという経緯もありまして、ただ、こちらに小倉駅、新幹線もここにとまるよというふうになってから、こちらの川から西がすたれたというんですけれども、沈滞が激しくなりまして、それでこういう一つの起点となるリバーウォーク、それと勝山公園の整備、ここに回遊性を持たせようということで、ハードはそういうふう整備して、道路とか公園とか施設は整備しながら、イベントもこの川全体、周辺全体でやろうというところで、対岸というんですか、こちらの方にもそういうものが見えるように、向かってつくりがあるという形になりました。

なお、小倉城は、昭和34年に建て替えしており、歴史的には浅いので、文化財的価値はありません。中に入っていたら、本当にミュージアムみたいな機械じかけになっていて、それはそれでおもしろいんですが、そういったところもあって、もともと小倉城の近くに本庁舎自体が高い建物を建てておいた関係もあって、悪く言えばお城を軽視したようなところもあるんですが、同じようにリバーウォークが建ったというところもございます。これが、文化財的価値があるなら、ああいう建物は正直難しかったのではないかというふうに思っております。

問： 川を生かして、川の橋の上でありますとか、川の周りでいろいろイベントをやったりしますが、川自体の船とかそういった形で何かイベントはされたんですか。

答： 先ほど申し上げた福岡地所の方が運営して、手こぎボートの運営をしたりとか……。屋形船を浮かべたり、ウ飼いをやったりとか……。また、長崎のハウステンボスから船を持ってきて浮かべたりとか、いろいろなことを……。四季の折々ですね。水辺のジャズコンサートをやったり。ウ飼いは原鶴温泉から鵜匠さんと呼んできて……。

問： デザインをお願いしたのは、特にコンペとかそういうのを開いたわけではないのでしょうか、ジョン・ジャーディとマイケル・グレイブスと、どういう形で……。

答： プロポーザルコンペを開きました。こちらからお金を払ってやるコンペです。内外の超有名デザイナーさんとかに応募していただいて、その中からジョン・ジャーディと日本設計のグループが落札。私どもで専門の学識経験者を含めた委員会をつくりまして、その委員会でそこが一番いいかというところで選定してもらっております。安藤忠雄先生とか、そういったグループも応募してもらって……。

問： ホールが大、中、小と分かれていますけど、これもやはり福岡地所さんに運営を委託しているんですか。市の方で……。稼働率は、いかがでしょうか。

答： これは純粋に市だけです。芸術文化財団に委託しています。稼働率は非常にいいみたいです。もちろん、公演期間だけではなくて、準備期間も含めてのことですけれども、それを含めると稼働率は非常にいいみたいで、80%とか90%とか、それぐらい。

## 小倉城、松本清張記念館、リバーウォーク北九州を現地調査

前日に説明を受けた、一体となった敷地内にある、小倉城天守閣、松本清張記念館、リバーウォーク北九州について現地調査を行う。

小倉城 昭和34年に再建され、映像体験ゾーン、企画展示ゾーンなどを設けている。

### 松本清張記念館

松本清張氏は、現在の北九州市小倉北区出身で、朝日新聞西部本社広告部に勤務する傍ら執筆活動を行う北九州を代表する作家である。記念館には、杉並区の松本清張氏の書斎・書庫を再現するなど展示の拡充に努めている。

### リバーウォーク北九州

説明を受けたとおり、建物真ん中近くのテラスからお城の展望は、まさに額縁の中にお城が収まるように建物構造ができています。調査当日は、平日の日中にもかかわらず来客は、なかなか多いように見受けられました。



## 2) 歴史ある建造物を利用した観光施策について

【北九州市：門司港レトロ室酒井係長】

「門司港レトロ地区」について説明を受けた後、視察を実施。

### § 門司港レトロ地区の歩み

#### 1 事業目的

再生復興、都市としての再生浮揚、こうしたことを目指して、物流であったり、環境であったり、こういった切り口がある中で、この門司地区については、特に環境ではなくて観光で地域浮揚を図れないかということで着目して始められたのが門司港レトロ事業と申します。

#### 2 門司港レトロ事業の経緯

##### (1) 門司港 繁栄の時代

この背景には、歴史的なものがございまして。まず、門司港、ポート門司という方が世界的には名が通っているそうですけれども、明治、大正時代、昭和の戦前まで、日本を代表する貿易港でした。ただし、下関港や長崎港のように、江戸時代、もしくはそれ以前から栄えた港ではありません。ここは明治22年、国策によって切り開かれた港でございまして。九州の、のど元、鉄道の拠点、旧門司鉄道管理局、東鉄、大鉄、門鉄という鉄道御三家の本部もこの小さなまちにつくられ、陸、海の拠点ともなりました。

同時に、日本銀行の2つ目の支店、大阪支店に次ぐ西部支店が、最初は下関にあって、すぐに門司に移転し、長いこと日本銀行の支店があるまちでした。

それから、大手金融資本、商社、非常にメジャーな会社の拠点がどんどん集中しており、主要な都市銀行の支店がほとんどこのまちにはそろっていた状況でした。

そして、大正5年に至りましては、全国の入出港船舶数、これはトン数ではないので、日本一と言えるかどうかわかりませんが、出入港の船舶数は約5,000ということで、日本一の港となっています。

当然、人、物が集まりますので、まち並みも西洋化が図られ、一番繁栄した大正時代には、現国道3号線の一部がロンドン通りと呼ばれるなど、非常に繁栄した時期があったという歴史があります。

こういった面では、北海道の金融センターであった小樽と似通っていると



ころがございませう。あと、本州との連絡口ということであれば、函館、そういった港町、小樽と函館を足していったような繁栄がこのエリアにはあったということございませう。

それともう1つは、戦前の満州国、中国東北部の入り口であった大連への連絡船の出向地は門司でした。船はいろいろなところから出ますが、朝鮮半島の釜山行きは下関、中国の大連は門司、中国の上海は長崎というのがメインのルートで、その中でも中国の東北部、中国に行く窓口ということで、その3つの港の中でも特に（門司港の）繁栄が大きかったということは言えると思います。

もう1つは、背景として、筑豊地区の石炭がございませう。今では考えられませんが、当時国内産の中では火力が強いということで、欧州航路等長距離の船はここに寄って、石炭を積み、ここから上海、シンガポール、ペナンを通過してインド洋の方へ行く航路でした。石炭のおかげもあり、門司港というのは港湾として栄えたという歴史がございませう。

## （2） 門司港 衰退の時代

今申し上げた大陸への玄関口、それから、船舶中心であること等々のものが一気に崩れ去る時代が実は参ります。それが衰退の時代です。

まず戦争が終わる前の昭和17年に、（在来線の）関門鉄道トンネルが出来ます。

それから、昭和33年には、国道トンネルが出来ます。これは国道2号線の一部になっております。

それから、昭和48年に、関門自動車道の関門橋、これで高速道路も通過いたします。

翌々年の昭和50年には、山陽新幹線の新関門トンネルというのが出来ます。これによって、主要物流というのは、九州と本州を結ぶということに関しては、門司で一々荷物をおろしたり、人がおりたりする必要はほぼなくなりました。

もう1つは、戦争の昭和20年の夏をもちまして、大連航路が、引き揚げ船以外は当然不要になり、中国大陸の玄関としての機能もなくなりました。

さらに悪いことに、ここは軍港ではありませんでしたが、軍の兵站基地であったため、戦後数年間は機雷封鎖がとれませんでした。このため、戦後、日本が朝鮮特需とかでわっと盛り上がっていくときにも、乗り遅れるというような不運もございました。

### (3) 門司港レトロ事業のきっかけ

こうして、企業の合理化、拠点性の低下ということで、門司港は繁栄した戦前からわずか二、三十年後にはかなり衰退するまちになってしまいました。

追い打ちをかけるように、国鉄の民営化に伴い、門鉄がJR九州になりまして、福岡市へ移転する。

それから、歴史的建造物もちょうど昭和50～60年代に取り壊されるケースが増えてきたこともあり、まちの中でも危機感が出てきました。こういった、歴史的な繁栄をバックボーンに持つ建物、まち並み、水際線、何とかこれを武器にできないかと考えられたのが門司港レトロ事業でございます。

## 2 事業コンセプト

事業コンセプトは、衰退する門司港の活性化ということで、よくご視察いただく方に申し上げるんですが、門司港レトロは観光が目的ではありません。観光を手段にして、まちの活性化を図る。北九州という市の中で門司エリアの繁栄、振興を図るための手段として、観光が一番、（これ）しかないということで取り組んだ事業でございます。

## 3 門司港レトロ 第1期事業

### (1) 事業内容

第1期計画が取り組まれるのが昭和63年度から、約20年前になります。

市としては、昭和63年から約7年間に、約300億円を投じまして、この建物の背中になりますが、第一船だまりの周辺に歴史的建造物を一部移築し、ほかの部分はお化粧直しをいたしました。同時に、道路の電線の地中化でありますとか、プロムナード、歩道、そういったものの整備をいたしました。

玄関口の門司港駅の周辺を観光客の方に快適に通過いただけるような整備をいたしました。

中国の友好都市である大連市、先ほど申し上げた連絡船の行き先ですけれども、友好ということで、大連にあった建物をそのままレプリカをつくり、図書館として整備もしています。

その他海沿いの部分、横浜と似ているんですが、波止場をそのまま生かせるということで、ウォーターフロント等の整備等をいたしております。

### (2) 成果

北九州市も力を入れた結果、観光客はおかげさまでかなり増えました。平

成6年までは年間20万人レベルで推移していたものが、一通り建物が出そろいグランドオープンを行った平成7年には、一気に107万人まで増えました。マスコミにもかなり出ましたし、まちの人たちも観光地として生きていこうと、観光ボランティアの動きが出たり、商店街が自ら観光案内所を運営したりというような動きも出てまいりました。

イベント系も、自分たちのまちのイベントは自分たちで考えようということで、住民団体が活発に動き出したのもこの頃でございます。

### (3) 課題

問題もございまして、滞在時間が短い。どうしても第一船だまりの近辺をぐるっと見て回れば一、二時間で十分だということ。行政の投資が先行しましたので、飲食とか物販施設が不足しました。このあたりが、一番行政の弱いところで、後回しになっていました。

第1期計画については、そういう課題がありながらも、観光動態調査の数字ですが、一つの観光地として107万人が集まるというのは我々地方都市としては大きいことです。第2期事業でこの課題を克服しながらさらに飛躍しようということになりました。

## 4 門司港レトロ 第2期事業

### (1) 事業内容

第2期事業は、平成9年度からを事業期間とて、第1期事業の足りなかった部分を補うということで進めてまいりました。第1期は市が300億円を出しましたが、第2期は市は150億円、民間が150億円の300億円規模ということで取り組んでおります。

門司港レトロ展望室の整備をしたり、夜景景観の整備、サイクリングロードをつくる、レストラン、土産物、観光市場、また、駐車場とかトイレをつくる。

民間として人気を誇っています門司港ホテルというのが門司港の一等地の海が見えるところにありまして、ここはかなり若い方から年配の方まで幅広い人気の施設もございます。

また、出光美術館は、東京に本館があります。出光商会発祥の地が門司港ですので、そういう縁もあって出光美術館ができ、ユニークな、陶器、浮世絵等、日本の古い文化を紹介する美術館として、かなり高い人気を誇る施設もできました。

半分は市の事業になりますが、海峡ドラマシップという観光施設、九州鉄

道記念館、これはＪＲ九州さんとの協力事業も実施しています。

海峡ロープウェイとか未実施の事業もございますが、おおむね８割以上の事業は平成１６年度までにほぼ終わっております。

## （２） 成 果

第２期事業の成果は、平成７年に（観光客が）１０７万人だったところが、ピークの平成１５年度には２５５万人まで増えました。これは、ＮＨＫの大河ドラマ「武蔵」というのがあり、宮本武蔵の話でかなりお客さんがわっと来た。その反動で、１６年度はちょっと下がってしまって、今２３０万人、それでも２００万人以上の方においでいただいている観光地として頑張っております。

福岡県の中でも、太宰府天満宮やソフトバンクホークスのあるホークスタウン、そういうところと並んで上位の３本の指に入る観光地です。全九州で見ても、近隣からのお客さんが多く、ベストテンにぎりぎり入るかなというぐらいの観光地として、かつての重工業のまちの中にあっては、観光地としてまずまず健闘しているのかなというふうに考えております。

## （３） 事業の特徴

### １） 門司港レトロ倶楽部

門司港レトロ地区の開発の特徴について若干触れたいと思います。行政が先行してハード整備から入ったということに関しては、普通の都市開発と似通ったところがあると思うんですが、ソフトの部分については、「門司港レトロ倶楽部」という官民協働の団体を平成７年に設立しております。

重立ったイベントは、この「門司港レトロ倶楽部」なり「レトロ倶楽部傘下の団体」が実施しております。

例えば毎年８月１３日に関門海峡花火大会、下関と門司と両岸から花火を同時に打ち上げるというイベントがございます。この地方に１００万人ぐらい集まるんですけども、こういったイベントなんかも基本的にはこういった団体（門司港レトロ倶楽部 等）の実施となっております。

ゴールデンウィークでも、九州では博多どんたくに次ぐ第２位の人気を誇る門司港レトロフェスタというのも門司港レトロ倶楽部の主催です。

行政の方も若干運営費の一部を負担するなりしておりますが、主に民間の発意、企画力、そういったものに頼った活動というのが比較的うまくいっているのではないかとということでご評価をいただいております。

## 2) 下関市との連携

2つ目は、下関市との連携で、対岸の下関まで、一番狭いところは70メートルしかありません。

中国の偉い方が来られますと、これはきれいな川ですねというふうにつもおっしゃるんですけども、それぐらい近いところにある下関市と、連絡船との関係があり、文化的には非常に交流の歴史が古うございます。ですので、観光の部分でも共同事業に取り組んでいこうということで、下関市と連携をして、いろいろなキャンペーンをしたり、イベントをしたりということに取り組んでいます。

## (3) 今後の門司港レトロ

### 1) 「関門海峡」のブランド化

今後門司港レトロ地区をどうしていくのかということがあります。

1つは、門司港の前に、関門海峡というブランド化を図っていこうではないかということで、今後も取り組んでまいります。なかなか難しい部分もあるんですけども、こういった形で少しでも他の観光地さんとの競争に勝っていかなければいけないということで力を入れてまいりたいと思っております。

### 2) 民間管理体制への移行

2つ目ですけれども、市が最初に建てた建物がいっぱいありますので、その建物を徐々に民間管理体制への転換と今一生懸命取り組んでおります。主には指定管理者制度を活用いたしまして移行しております。今市立施設でほとんど指定管理者制度に移行しまして、逆に移行した後、どうコントロールというか、どう評判を落とさずに、もしくは積極的に評判を上げてやっていくかということが今悩みの種というか、ちょうど取り組んでいるところでございます。

あと第2期事業の残事業があるんですが、民間が主体となってやるべき事業で、今の経済情勢その他によって頓挫というか、凍結されている事業がございますので、今後も支援していく。関門海峡にロープウェイをかけてはどうかとか、関門橋のすぐ近くまで列車を走らせたらどうかとかいう構想がございますので、これも注意深く見守っていく。

### 3) 民間活力のさらなる導入

それから、民間活力を今後もどんどん導入していきたい。門司港ホテルというのはデザイナーズホテルでかなり人気もありますので、それに次ぐ2番目のそういったホテルについても、今誘致が一応できまして、計画が

進んでおります。そういった形で、もっともっと民間の方にここでもうけていただきたいということに関する努力というのを我々がしなければいけないというふうに思っております。

#### 4) 地域との連携によるまちづくりと観光マインドの育成

そして最後に、ここはもともと観光地ではなかったもので、一番問題なのは、まちの人、住んでいる人に観光に対する理解をどうしていただくかというのは永遠のテーマでございます。

例えば日曜日、家でごろんとしているのに横に観光客の人が笑いながら歩いてうるさいとか、ごみを散らかしていくとかいう苦情も出ます。

しかし、観光地によっては、すれ違う方に、「こんにちは」と言ったり、「どこから来られましたか」という、そういうもてなしの心も大事ですので、これは私どもはマニュアルをつくるという問題ではなくて、時間がかかりますけれども、(もてなしの心)育てていくべきではないかなというふうに思っております。

#### (4) 問題点

まだまだ宿題が大きいし、もっとはっきり言えば、まだ観光だけで食べていけるような状況ではないので、皆様方に胸を張って成功例ですと言えるような状況ではないんですけれども、一つの地方都市のチャレンジとしてご理解を賜ればありがたいと思います。

ここは、めかり地区、ブルーウイングもじ、関門海峡というのが表の左側の方にあると思うんです。門司港というのは、先ほど申し上げたように、繁栄があった歴史的な港町という背景が1つあるんです。これは、小樽であっても一緒だと思うんですけれども、門司港がそれだけ魅力があるのは、自然景観も豊富だということです。

#### (5) 自然環境

実は、意外に思われるかもしれませんが、この門司区には、瀬戸内海国立公園の一部が含まれているんです。先ほど言っためかり地区、関門海峡の橋のあたり、瀬戸内海国立公園が何で九州にと思われるかもしれませんが、確かに地図を見ていただければ、一番端っこがこの辺なんです。ですので、明石あたりから始まる、国立公園はいろいろ点々とありますけれども、その中的一部分がありますので、この雄大な自然景観、それから、鳴門にも負けない潮の流れ、国際航路ですので、そういった自然景観なりがもう1つのバックボーンになり得ること。

それと、さらに恵まれているのは、歴史的な背景がいろいろあるんです。歴史もいろいろあります。ここから遣隋使、遣唐使を最後に送った港という歴史もあったそうですし、壇の浦の戦いというのは、まさしく関門海峡で起きました。それから、宮本武蔵と佐々木小次郎の巖流島も、今も海峡の真ん中にぽっかりと浮いています。それから、対岸になりますけれども、下関の方が明治維新の発祥の地ということで、それで下関戦争の舞台にもなりました。

それから、戦争中はずっと兵站基地として栄えたという歴史もあります。歴史といっても、ほとんど血なまぐさい部分の歴史ではありますけれども、明治維新とか宮本武蔵とか源平とか、いろいろ皆さんの耳なじみの深い歴史の舞台ということもありますので、そういった部分も観光資源になり得るのではないかと考えております。

対岸の下関には、日清戦争の講和条約を結んだ春帆楼という料亭が今もあるんですけれども、そこに当時伊藤博文と李鴻章が座ったいすまで残っております。そこへ台湾のお客さんがよく来られます。台湾のお客さんは、ここで日本に負けたんだということで見にこられるというところもございまして、そういった歴史というのも一つの観光地の武器となっているところでございます。



### 3) ゴミ有料化について(資料収集による調査)

次の資料を受領しました。

家庭ごみ収集制度の見直しについて(平成17年5月)

かえるプレス NO23, 24(北九州市発行の環境情報紙)